

さびしいとき

八百津町 第16組 等覺寺 齋藤 義英

私がさびしいときに、よその人は知らないの。

私がさびしいときに、お友だちは笑うの。

私がさびしいときに、お母さんはやさしいの。

私がさびしいときに、仏さまはさびしいの。

先日、何かとお世話になった門徒さんが急逝されました。その方は妻を亡くされてから一人で頑張っていたらっしゃったのですが、体調を崩されました。普段は気丈に振る舞ってこられたのですが、倒れて入院された時、子どもさんに「さびしい」と告げられたそうです。

最初の詩は金子みすゞさんの「さびしいとき」という作品です。父親を3歳で亡くした金子みすゞさんの寂しさが他の詩にも綴られています。仏さま、つまり仏壇のあみださまの前に座って寂しさを仏さまと共有されたのでしょうか。

翻って、私は昨年母が亡くしました。体力が落ちていたとはいえ、急でした。寂しいとは云わなかったのですが、夫に5年前に先立たれたので、今思えば寂しかったのだと思います。

みすゞさんも、妻を亡くされた門徒さんも、私も別れを経験し、さびしい。そのさびしさから別れの事実を確認し、別れた人との出遇いに感謝し、出遇いの意味を確認することが出来ると思います。

出遇いの確認は寂しさの中から出遇いの素晴らしさ、不可思議さを感じさせてくれます。それは「有ること難し」だと年と共に思えてきました。